

食料品製造業

事例40

自分自身を知ること、 安全への意識を高める

平成23年度安全衛生に係る優良事業場厚生労働大臣奨励賞を受賞したサンハウス食品株式会社は、ハウス食品グループの一員としてレトルト食品部門などの製造を担う。安全に対する心構えは社風として社員1人ひとりに行き渡っている。

サンハウス食品株式会社・愛知県

安全について総合的に捉え、考えられる態勢

食品会社にとって安全と衛生ならびに品質は切っても切れない関係にある。サンハウス食品においても安全衛生委員会は毎月開催しているが、そこでは安全だけを取り上げているのではない。社員の健康面や交通安全といったことも取り扱う。体調が芳しくない状態で仕事を行えば、安全や品質に対する心掛けが薄れることもあるからである。また、安全教育に関しても、単に安全だけを取り上げるのではなく、品質や環境などの教育とあわせて総合的に行われる。つまりは、総合的に考えることで、より充実した安全体制を確立していこうというわけである。

社是・社訓の中に安全の基本

サンハウス食品は、ハウス食品グループとして、グループ会社の各工場と情報を共有できるように常に情報交換を行っている。安全についても、当然、さまざまな情報を共有している。ハウス食品には「ハウスの意（こころ）」という社是・社訓があり、「誠意 創意 熱意を持とう」を社是としている。ハウスの意はグループ全体としても共有している。この中に「自分自身を知ろう」ということが謳われている。

「自分」とは1人ひとりの社員であり、会社そのものでもある。自分自身を知るとは現状や考え方を知ることであり、1人ひとりが自分の行動について判断し、あるいはメンバーに対しての指導、そしてメンバーは自分が置かれている立場などを考えるということである。この

安全衛生委員会名簿と安全衛生管理体制

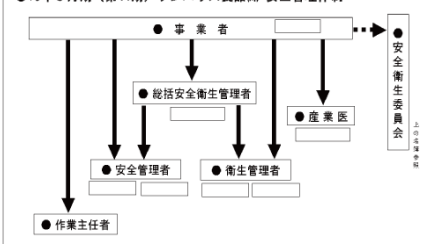
●13年3月期 サンハウス食品㈱ 安全衛生委員会名簿

委員長	小笠原 敬世	工務部長
副委員長 (組)	副委員長	
委員 (全)		課長
# (組)	チーム	
# (全)		課長
# (組)	チーム	
# (全)		課長
# (組)	チーム	
# (全)		チーム
# (組)	チーム	
# (全)		チーム
役員兼事務局長 (全)	チーム	
事務局長	#	
産業医 (全)	サブスーパー	
オブザーバー	オンブズマン	
#	名古屋証券	
#	HSISに属	

※14名(オブザーバー3名除く)
 ※組合推薦による委員6名(委員長・事務局長を除き半数)
 ・氏名後 ※印は安全管理者、●印は衛生管理者

部会名	部会長	部会員
安全部会		
健康衛生部会		
交通安全部会		

●13年3月期 (第44期) サンハウス食品㈱ 安全管理体制



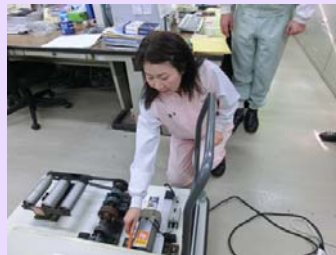
ソーセージを機械に挟んで危険性を体感する



キャリアカード



社員への安全教育活動



言葉は、そのまま自分たちの会社、現場の安全対策について知ろうということにもつながる。

サンハウス食品の安全衛生活動は、社是・社訓にある「自分自身を知ろう」が基本となつて構築されている。さらに「有用な社員は事業目的遂行のための良きパートナーである」ことも謳っている。パートナーはお互いがお互いを尊重し、大切にすることである。安全に対しても、1人ひとりが深く考え、行動する事が基本になるといった考え方がここにも現れている。

さらに1人ひとりに対し、きめ細かな教育を実践していくためにキャリアカードが使われている。その人にとっての新しい作業や工程を行うときは、決められた手順や方法が守られているかどうかを審査し、合格し、認定・登録されなければいけないというものである。これはISO9000の品質保証の認定取得をしたときから行っている。

無災害570万時間を目指して

平成23年度安全衛生に係る優良事業場 厚生労働大臣奨励賞の受賞は、サンハウス食品の長年にわたる安全への取り組みの結果であり、決して一朝一夕にでき上がったものではない。この賞は無災害を達成した延べ労働時間も判定基準の1つとなる。サンハウス食品は

社員数が約300人で、延べ時間は受賞した時点で380万時間であった。現在は570万時間を目指して無災害時間の記録を更新中である。

基本ルールの徹底

1. 職場内を走らない
2. 階段は1段ずつ昇降する
3. 動いている機械に手を入れない
4. 機械を動かす際は大きな声で合図確認する
5. 停止ロック札掛を徹底する
6. 保護具は決められたものを正しく着用する

一見すると、どの項目をもいまさら人に言われたり、自分で確認をする必要がないほど当たり前すぎるように思われる。つまり基本中の基本である。ところがこうした基本ルールをきちんと守られるかどうかとなると、意外と難しい。逆に、こうした基本を徹底させることができれば職場でのケガは大幅に減少する。

言葉遣いや項目数など、若干の変化はあったようだが、会社に安全衛生委員会が設置されて以来、基本ルールの遵守はずっと取り組まれてきた。

この基本ルールはハウス食品グループが共有している。そのため、他のグループ会社へ出向したり応援に出かけたときも、同じルールで対応ができるというメリットがある。

毎月の重点テーマは各職場に掲示をしたり、朝礼、終礼時に唱和する。さらに6項目を四角いマスの中に書き込み、そのマスを十字形に並べたポスターを各職場に配布する。ゼロ災害で重点ルールが遵守出来た月は、四角いマスを緑色で塗りつぶす。6項目すべてが達成できると、緑十字が完成する。

2012年度から5年間ゼロ災害へのチャレンジの準備として、安全活動や安全基礎教育、危険箇所のリストアップ、職場の安全に必要な資格や法定教育といったことを職場のグループごとに取り組み、2012年5月からはTWI-JI訓練（監督者がメンバーに対し、仕事を正確かつ安全に教えるための指導方法の訓練）を行い、それによる作業指導にも取り組んでいる。

機械に手を挟まれるなどの事故防止のため、簡単な機械を作り、指に見立てたソーセージを挟み危険性を訴えている。台車に積んで移動できるようにして、現場だけではなく、直接は関係のない管理部門の社員など全社員が体感できるようなことも実施している。こうした知識や体験を全社員で共有することが、全社的な高い安全意識につながっている。

